

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（B：裁量無・その他）

記入日 令和5年4月4日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	母子保健事業費 〔訪問指導事務等〕		部	健幸いきいき部			係	保健係			
			課	健康推進課			課長名	幸村 有紀			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策1	1 子どもたちの笑顔があふれるまちづくり					第五次基本計画	51 ページ			
	基本施策2	2 健康であたたかい心のかよいあうまちづくり					第五次基本計画	65 ページ			
	施策	施策 1	—	1	重要 施策	施策 2	—	1	重要 施策	複数施策	☒ あり
	展開方向	1	☒ 安心して子どもを生み育てることができる環境づくり					重要施策	☒ 該当		
		2	☒ 子どもたちの成長と発達を支援する環境づくり					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☒ 病気の予防及び早期発見・早期治療のための環境づくり					実施計画	☒ 該当		
事業種別	☒ 法定受託事務 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せなし） ☐ 課内庶務等 ☐ 休止したもの ☐ 廃止したもの										
予算科目	会 計	一般会計		款	4	項	1	目	1	事業番号	3
開始年度	年度 ☒ 不詳					行政報告書	289 ページ		新規・継続	継続	
実施の根拠 (法令・要綱等)	母子保健法										
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要										
	妊産婦や新生児に対して、保健師や助産師が訪問指導を実施する。支援が必要な家庭に対しては、適切なサービス提供を行い、関係機関との連絡調整を行うなど、継続的な支援をしている。 実施している訪問指導事業：妊産婦、新生児、未熟児、乳幼児等										
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか					
	市に居住する妊産婦、新生児、未熟児、乳幼児等					産前から産後、及び新生児時期において、子育て家庭での育児が充実できるようにする。					
	活動内容：どのような手段で行ったのか					実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか					
出生通知表を受理し、新生児訪問を実施していく。 必要時には関係機関と連携した。					母親が安心して育児にのぞむことができる。						
3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
	事業費（実績）		円	21,307,678		19,616,264		18,030,367			
	財源	一般財源	円	17,226,551		16,294,048		10,365,811			
		特定財源（国・都・他）	円	4,081,127		3,322,216		7,664,556			
		（うち受益者負担）	円								
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人	0.1		0.1		0.1			
		所要人数（再任用）	人								
		職員人件費（再任用以外）	円	838,000		825,000		816,000			
職員人件費（再任用）		円									
事業費+人件費		円	22,145,678		20,441,264		18,846,367				
4 課題	(1) 令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 4課題を転記）										
	特になし。										
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと										
	課題のある妊産婦等の対象者を早期に把握できるように窓口対応した。出生通知票未提出者については、母子手帳交付情報をもとに連絡を取り、早期介入について心がけた。										
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）※廃止したものを除く										
対象者の早期把握に努めることを継続し、切れ目ない支援に努める。											
5 今後の方向性	(1)仕事の方向性、今後の取組 ※廃止したものを除く										
	出産・子育て応援事業と抱き合わせで行う事業であるため、円滑に事業を遂行できるように努める。										
	(2)上記の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ※廃止したものを除く										
訪問指導を通じて、妊産婦の現状把握に努める。改善点があれば、改善策を検討していく。											

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月14日

基本情報	事業名称		担当部署								
	母子保健事業費		部	健康いきいき部			係	保健係			
	〔両親学級、育児学級事業等〕		課	健康推進課			課長名	幸村有紀			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策1	1 子どもたちの笑顔があふれるまちづくり					第五次基本計画	51 ページ			
	基本施策2	2 健康であたたかい心のかよいあうまちづくり					第五次基本計画	65 ページ			
	施策	施策1	—	1	重要施策	施策2	—	1	重要施策	複数施策	☒ あり
	展開方向	1	☒ 安心して子どもを生み育てることができる環境づくり					重要施策	☒ 該当		
		2	☒ 子どもたちの成長と発達を支援する環境づくり					まち・ひと・しごと創生総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☒ 市民の自主的・自発的な健康づくりの促進					実施計画	☒ 該当		
事業種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）										
予算科目	会 計	一般会計	款	4	項	1	目	1	事業番号	3	
開始年度	年度 ☒ 不詳				行政報告書	289 ページ		新規・継続	継続		
実施の根拠 (法令・要綱等)	東大和市母子保健法施行規則第3条の規定										
事業概要・目的・活動・実績	事業概要	妊産婦とその家族や新生児に対し、妊娠期から出産、子育て時期までの継続した育児・健康教育を行う。 また、育児中の仲間づくりの機会の提供をはかる。 実施事業：両親学級、育児学級、すこやか広場（さくらんぼの会、イルカの会、かंगるーの会）、講演会									
	対象：誰を、何を対象としているか						目的：対象をどのような状態にしたいのか				
	妊婦とその家族						妊娠から出産、その後の育児についての知識を得ること、安心して妊娠・出産・育児ができる				
	活動内容：どのような手段で行ったのか						活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか				
	①両親学級 ②育児学級 ③すこやか広場（さくらんぼの会、イルカの会、かंगるーの会） ④講演会						・出産へのイメージがつき、不安の軽減につながった。 ・同じ時期に同じ地域で出産、子育てをする他の妊婦との交流の場となった。				
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
		年度目標値	人	参加妊婦の実数：90人		参加妊婦の実数：90人		参加妊婦の実数：90人			
		効果実績値	人	48人		73人		55人			
		目標値設定の考え方	両親学級の対象となる市民がどれだけ（人）参加できたか。								
	経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	21,307,678		19,616,264		18,030,367				
財源		一般財源	円	17,226,551		16,294,048		10,365,811			
		特定財源（国・都・他）	円	4,081,127		3,322,216		7,664,556			
		（うち受益者負担）	円								
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.02		0.02		0.02			
		所要人数（再任用）	人								
		職員人件費（再任用以外）	円	167,000		167,000		167,000			
		職員人件費（再任用）	円								
事業費+人件費		円	21,474,678		19,783,264		18,197,367				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	・先輩ママ、パパとの交流や、沐浴の体験等、アンケートの結果は高評価であった。										

5	市民協働	市民協働の取組	取組手法：⑥、⑦						
		☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）						
		令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点							
6	分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)							
		☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下	説明： 令和3年度から引き続き、感染症対策を講じながら実施。各医療機関での教室も復活してきているからか、参加者も昨年度に比べると減少傾向。						
		(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)							
		☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下	説明： 多数の市民、特に配慮を要する妊婦を対象とした事業であるため、来年度以降実施するにあたって、今年度同様の事業費と人件費が必要。						
		(3)指標の達成状況の評価							
			(2) 費用対効果			成果ランク (評価)	成果 ランク の 説明 と 方向 性	A：効果指標・費用対効果が共に向上	
		(1)		向上	維持			低下	B：効果指標が向上・費用対効果が維持
		効果 指標	向上	A	B	D		E	C：効果指標が維持・費用対効果が向上
			維持	C	E	G			D：効果指標が向上・費用対効果が低下
			低下	F	H	I			E：効果指標・費用対効果が共に維持
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。					F：効果指標が低下・費用対効果が向上				
					G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※				
					H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※				
					I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※				
(4)効率性評価(さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。)									
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明： 妊娠中3日間のコースとしているが、当事業の目的を達成するためには必要だといえる。							
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)									
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明： 他に代わる事業がないため。また、市民のニーズも高い事業であるため。市民が安心し、出産・子育てをしていくにあたり、必要な事業であるため。							
7	課題	(1)令和4年度に課題とした内容(「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題(3)を転記)							
		新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら、参加者数の維持、向上をはかる。 子ども家庭支援センターとの連携方法を模索する。							
		(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと							
		・教室開催時に相談・遊び場として「かるがも広場」を案内した。また、昨年度かるがも広場にて沐浴実習を行ったコースの参加者が先輩ママとしてアフタークラスに参加した際に、かるがも広場での実習についての感想をアンケートによって集計した。 ・感染症対策を講じながら事業を実施。							
8	今後の方向性	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)							
		・新型コロナウイルスの感染症分類変更後の事業の実施方法の検討 ・市民ニーズを反映させた事業の展開 ・参加者数の確保							
		(1)今後の取組(「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)							
		・引き続き、対象者への学級の周知、案内に努める。 ・妊娠届出時、転入手続き時に、妊婦やその家族の生活背景を把握する。 ・学級参加時の参加者の発言や、終了後のアンケートから参加者のニーズの把握に努める。							

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月14日

1 基本情報	事業名称		担当部署									
	成人保健事業費		部	健幸いきいき部				係	保健係			
	〔歯科相談事業（妊婦歯科健康診査等）〕		課	健康推進課				課長名	幸村有紀			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ											
	基本施策	2 健康であたたかい心のかよいうまちづくり						第五次基本計画	65 ページ			
	施 策	施策2 — 1 保健、医療						複数施策	☐ あり			
	展開方向	1	☒ 市民の自主的・自発的な健康づくりの推進						重要施策	☒ 該当		
		2	☒ 病気の予防及び早期発見・早期治療のための環境づくり						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☐						実施計画	☐ 該当		
	事業種別	☒ 市単独 ☐ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）										
予算科目	会 計	一般会計	款	4	項	1	目	1	事業番号	4		
開始年度	平成 24 年度 ☐ 不詳				行政報告書		304 ページ		新規・継続	継続		
実施の根拠 (法令・要綱等)												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		受診者は、実施歯科医療機関において、必要事項を記入した健診票及び母子健康手帳を提出し健診を受ける。健診結果の判定は、「異常なし」、「要指導」又は「要精検」に区分し、原則として健診日当日に実施歯科医療機関から受診者全員に健診結果の説明及び歯科保健指導を行う									
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	妊婦（原則妊娠12～27週頃）					妊婦が口腔保健に関心を持ち、口腔ケアの習慣の必要性を理解し口腔ケアが実践できるようにする。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか					活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	母子健康手帳発行時に妊婦歯科健診票を全妊婦に交付する。					妊婦の健康向上に寄与した。						
	効果指標	増加を目指す指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
		年度目標値		人	対象妊婦数530 265 (50%)		対象妊婦数508 254 (50%)		対象妊婦数473 236 (50%)			
		効果実績値		人	182 (34.3%)		204 (40.2%)		166 (35.1%)			
		目標値設定の考え方		母子保健手帳交付者のうちの妊婦歯科健診者数が50%近くなるようにする。								
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
事業費（実績）		円	21,307,678		19,616,264		18,030,367					
財源		一般財源	円	17,226,551		16,294,048		10,365,811				
		特定財源（国・都・他）	円	4,081,127		3,322,216		7,664,556				
		（うち受益者負担）	円									
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	1		1		1				
		所要人数（再任用）	人									
		職員人件費（再任用以外）	円	8,380,000		8,250,000		8,160,000				
		職員人件費（再任用）	円									
事業費+人件費		円	29,687,678		27,866,264		26,190,367					
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について											
	特になし											

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：⑤、⑥						
	☒ 取組んだ ☐ 取組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）						
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点								
	特になし								
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)								
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 参加者の大きな変動等は特になかった						
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)								
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 事業費の変動等は特になかった。						
	(3)指標の達成状況の評価								
		(2) 費用対効果				成果ランク (評 価)	成果 ランク の 説 明 と 方 向 性	A：効果指標・費用対効果が共に向上	
	(1) 効果 指 標		向上	維持	低下			B：効果指標が向上・費用対効果が維持	
		向上	A	B	D			C：効果指標が維持・費用対効果が向上	
		維持	C	E	G			D：効果指標が向上・費用対効果が低下	
		低下	F	H	I			E：効果指標・費用対効果が共に維持	
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わった ところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた 要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。					F：効果指標が低下・費用対効果が向上				
					G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※				
					H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※				
					I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※				
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）									
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない			説明： 事業費を削減できる余地はない						
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)									
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能			説明： 安心して子どもを生み育てることができる環境づくりができなくなる。						
7 課 題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）								
	受診者が向上するよう努める。								
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと								
両親学級にて、妊婦と子どもの口腔保健について具体的な説明を行った。									
8 今 後 の 方 向 性	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）								
	受診者が向上し、口腔衛生を保つ重要性を認識するように努める。								
	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など）								
妊婦だけでなく、これから出産・育児をする可能性のある方全てに、正しい口腔衛生についての知識を得て もらうよう取組を行う。									

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	母子保健事業費 〔子どもの健診事業3～4か月児健診等〕		部	健幸いきいき部			係	保健係			
			課	健康推進課			課長名	幸村 有紀			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策1	1 子どもたちの笑顔があふれるまちづくり					第五次基本計画		51 ページ		
	基本施策2	2 健康であたたかい心のかよいあうまちづくり					第五次基本計画		65 ページ		
	施 策	施策1	—	1	重要 施策	施策2	—	1	重要 施策	複数施策	☒ あり
	展開方向	1	☒ 子どもたちの成長と発達を支援する環境づくり					重要施策		☒ 該当	
		2	☒ 病気の予防及び早期発見・早期治療のための環境づくり					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン		ページ	
		3	☐					実施計画		☐ 該当	
事業種別	☒ 法定受託事務 ☒ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せなし） ☐ 課内庶務等 ☐ 休止したもの ☐ 廃止したもの										
予算科目	会 計	一般会計	款	4	項	1	目	1	事業番号	3	
開始年度	年度			☒ 不詳		行政報告書		289 ページ		新規・継続	継続
実施の根拠 (法令・要綱等)	母子保健法										
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		乳幼児の年齢に応じて健康診査を実施することで、対象児の異常の早期発見に努める。また、要支援家庭の早期発見に努める。さらに妊婦健康審査を実施することで、妊娠期から出産、子育て時期の健康診査を行う。 実施している健康診査事業：3～4か月、1、6か月、3歳児、5歳児								
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか					
	年齢に応じた乳幼児、妊婦					児童の健やかな成長と保護者の不安の軽減					
	活動内容：どのような手段で行ったのか					実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか					
	検診の案内を送付し、集団健診を実施する。 検診未受診者に対しても、養育状況の把握に努める。					児の健やかな成長や保護者の不安軽減に努めた。必要なケースには、その後の支援を継続した。					
3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
	事業費（実績）		円	21,307,678		19,616,264		18,030,367			
	財源	一般財源	円	17,226,551		16,294,048		10,365,811			
		特定財源（国・都・他）	円	4,081,127		3,322,216		7,664,556			
		（うち受益者負担）	円								
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人	0.10		0.50		0.50			
		所要人数（再任用）	人								
職員人件費（再任用以外）		円	838,000		4,190,000		4,080,000				
事業費+人件費		円	22,145,678		23,806,264		22,110,367				
4 課題	(1) 令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 4課題を転記）										
	特になし										
	(2) (1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと										
	感染対策に留意しながら、健診の実施や未受診者追跡に努めた。必要なケースに対しては継続支援を実施した。										
	(3) (2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）※廃止したものを除く										
適切な時期に該当者にアプローチできるように取り組む。											
5 今後の方向性	(1) 仕事の方向性、今後の取組 ※廃止したものを除く										
	健診の目的が達成できるように、継続して取り組んでいく。										
	(2) 上記の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ※廃止したものを除く										
コロナ感染症の分類変更後の健診実施体制の見直しを行う。											

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年 4月4日

1 基本情報	事業名称		担当部署										
	成人保健事業費 〔健康相談事業〕		部	健幸いきいき部				係	保健係				
			課	健康推進課				課長名	幸村 有紀				
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ												
	基本施策	2 健康であたたかい心のかよいうまちづくり						第五次基本計画	65 ページ				
	施 策	施策2 — 1 保健、医療						複数施策	☐ あり				
	展開方向	1	☒ 市民の自主的・自発的な健康づくりの促進						重要施策	☒ 該当			
		2	☒ 病気の予防及び早期発見・早期治療のための環境づくり						まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ			
		3	☐ 地域の医療体制の確保						実施計画	☐ 該当			
	事業種別	☐ 市単独 ☐ 補助対象 ☒ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）											
予算科目	会 計	一般会計	款	4	項	1	目	1	事業番号	④			
開始年度	年度 ☒ 不詳				行政報告書		304 ページ		新規・継続	継続			
実施の根拠 (法令・要綱等)	健康増進法												
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		健康教室事業、及び健康相談事業を実施する。 実施する事業：生活習慣予防教室、いきいきヘルシー教室、女性のいきいき健康教室、こころの健康相談、女性の健康相談										
	対象：誰を、何を対象としているか						目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	おおむね40歳から64歳までの市民						正しい知識の普及と健康の保持増進を自らできるようにする。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか						活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	計測、血管年齢測定、体組成分測定、医師の講話、運動、保健師、歯科衛生士、栄養士の講話。						自ら健康増進に取り組むようになった。 健康維持に気をつけるようになった。						
	効果指標	増加を目指す指標		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
		年度目標値		人	18		18		49				
		効果実績値		人	18		49		18				
		目標値設定の考え方		「生活習慣教室の参加者数」を昨年度の実績値よりも超えるようにする。									
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度				
事業費（実績）		円	33,206,147		45,246,289		42,070,042						
財源		一般財源	円	28,263,038		39,953,289		35,427,684					
		特定財源（国・都・他）	円	4,943,109		5,293,000		6,642,358					
		（うち受益者負担）	円										
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.1		0.1		0.1					
		所要人数（再任用）	人										
		職員人件費（再任用以外）	円	838,000		825,000		816,000					
		職員人件費（再任用）	円										
事業費+人件費		円	34,044,147		46,071,289		42,886,042						
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について												
	・体組成分計測器で自分の筋肉量などわかるので、運動しようと思った。筋肉量を増やそうと思った。 ・減量しようと思った。 ・食事に気をつけようと思った。												

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：⑥、⑦					
	☒ 取組んだ ☐ 取組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）					
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点							
	特になし							
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)							
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明：令和4年度は、保健師が定員7名に対して4名しか確保できなかったため、日数を縮小したことにより、生活習慣教室の参加者も減少する結果になった。しかし、減計測、医師の講話、運動実技、保健師、歯科衛生士、栄養士の講話などそれぞれからのアプローチで、市民の健康意識を高めることができたため、維持とする。					
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)							
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明：令和4年度前後期それぞれ4日間コース開催予定だったが、後期は従事する職員の不足で3日コースに短縮した。					
	(3)指標の達成状況の評価							
		(2) 費用対効果				成果ランク (評価)	成果ランクの説明と方向性	
	(1)		向上	維持	低下			
	効果指標	向上	A	B	D			E
		維持	C	E	G			
		低下	F	H	I			
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、Iのときは廃止を検討する。								
(4)効率性評価(さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。)								
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明：市民の健康増進に医師、運動指導士、保健師、歯科衛生士、栄養の事業が必要。						
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)								
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明：市民の健康増進維持に必要な機会が失われる。						
7 課題	(1)令和4年度に課題とした内容(「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題(3)を転記)							
	・参加者数が1日目の計測日以降に尻つぼみになる傾向がある。 ・若年層の参加が少ない。							
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと							
8 今後の方向性	・SNSを使って事業案内した。 ・保育付き事業にして若年層の参加を促した。							
	(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)							
	・周知方法の工夫。 ・若年層の興味のあるテーマ作り。							
	(1)今後の取組(「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)							
	・SNSの活用。 ・保育付き事業							

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（B：裁量無・その他）

記入日 令和5年4月4日

基本情報	事業名称		担当部署								
	成人保健事業費 〔健康診査事業（胃がん等検診事業）〕		部	健幸いきいき部			係	保健係			
			課	健康推進課			課長名	幸村 有紀			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	2 健康であたたかい心のかよいあうまちづくり					第五次基本計画	65 ページ			
	1 施策	施策2 — 1 保健、医療					複数施策	☐ あり			
	展開方向	1	☒ 市民の自主的・自発的な健康づくりの促進					重要施策	☒ 該当		
		2	☒ 病気の予防及び早期発見・早期治療のための環境づくり					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☐					実施計画	☐ 該当		
	事業種別	☒ 法定受託事務 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せなし） ☐ 課内庶務等 ☐ 休止したもの ☐ 廃止したもの									
予算科目	会 計	一般会計	款	4	項	1	目	1	事業番号	④	
開始年度	年度 ☒ 不詳				行政報告書	304 ページ		新規・継続	継続		
実施の根拠 (法令・要綱等)											
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		胃がん等の早期発見を目的として、胃がん検診を実施。精密検査対象者には、受診状況の確認等実施している。 実施している検診：若年層検診、無保険者検診、肝炎ウイルス検診、骨粗しょう検診、成人歯科検診、胃がん検診、子宮頸がん検診、肺がん検診、乳がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検診								
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	成人市民				がん等を早期に発見し、市民の健康保持増進を図る。						
	活動内容：どのような手段で行ったのか				実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	市報やHPで周知し申し込みを受ける。委託医療機関で胃がん検診を実施する。				検診を受診することにより、自分の健康への関心が向上する。検診時点でのがん等の有無がわかった。						
3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
	事業費（実績）		円	33,206,147		45,246,289		42,070,042			
	財源	一般財源	円	28,263,038		39,953,289		35,427,684			
		特定財源（国・都・他）	円	4,943,109		5,293,000		6,642,358			
		（うち受益者負担）	円								
	人件費（目安）	所要人数（再任用以外）	人	0.1		0.1		0.1			
		所要人数（再任用）	人								
		職員人件費（再任用以外）	円	838,000		825,000		816,000			
職員人件費（再任用）		円									
事業費+人件費		円	34,044,147		46,071,289		42,886,042				
4 課題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 4課題を転記）										
	コロナ禍の影響もあり、受診控え後の「久しぶり受診」が懸念される。受診したい人の申請の機会を確保するとともに、精度管理に努める必要がある。										
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと										
	検診の周知の継続。精度管理に努めた。										
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）※廃止したものを除く										
引き続き、検診の周知と精度管理に努める。											
5 今後の方向性	(1)仕事の方向性、今後の取組 ※廃止したものを除く										
	検診対象者が受診の機会が得られるように、また、検診の精度を維持できるように取り組む										
	(2)上記の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等 ※廃止したものを除く										
技術的指針に基づいて、精度管理に努める。検診指針外について、医師会や上層部との検討が必要。											

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年4月 7日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	栄養指導事業費 〔健康教育事業、栄養相談事業等〕		部	健幸いきいき部			係	保健係			
			課	健康推進課			課長名	幸村 有紀			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	1 子どもたちの笑顔があふれるまちづくり					第五次基本計画	51 ページ			
	基本施策	2 健康であたたかい心のかよいあうまちづくり					第五次基本計画	65 ページ			
	施 策	施策1	—	1	重要 施策	施策2	—	1	重要 施策	複数施策	☒ あり
	展開方向	1	☒ 安心して子どもを生み育てることができる環境づくり					重要施策	☒ 該当		
		2	☒ 子どもたちの成長と発達を支援する環境づくり					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☒ 市民の自主的・自発的な健康づくりの促進					実施計画	☐ 該当		
事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）										
予算科目	会 計	一般会計		款	4	項	1	目	1	事業番号	5
開始年度	平成 9 年度			☐ 不詳		行政報告書	320 ページ		新規・継続	継続	
実施の根拠 (法令・要綱等)	東大和市母子保健法施行細則第3条の規定										
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		講話、調理の実演、個別相談								
	対象：誰を、何を対象としているか					目的：対象をどのような状態にしたいのか					
	市内の4か月から11か月の乳児と保護者					・乳幼児期の栄養、健康、発育発達などについての基本的な知識の習得。・育児支援・育児力の向上					
	活動内容：どのような手段で行ったのか					活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか					
	・一部保育付きとして保護者が参加しやすいようにした。 ・試食できない分、触ってもらい固さなど確認してもらった。					・相談したことにより育児に対しての不安解消。 ・離乳食の進め方、作り方に対して知識の習得。					
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
		年度目標値	人	144		168		176			
		効果実績値	人	118 (81.9%)		134 (79.8%)		126 (71.6%)			
		目標値設定の考え方	離乳食講習会の対象者枠に対して80%以上の参加を目指す								
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	399,985		299,718		219,741				
財源		一般財源	円	213,985		135,718		110,741			
		特定財源（国・都・他）	円	186,000		164,000		109,000			
		（うち受益者負担）	円								
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	0.1		0.1		0.1			
		所要人数（再任用）	人								
		職員人件費（再任用以外）	円	838,000		825,000		816,000			
		職員人件費（再任用）	円								
事業費+人件費		円	1,237,985		1,124,718		1,035,741				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	・不安な事、分からない事を聞いてもらってよかった。安心した。 ・実演がみれて、やわらかさなどわかり参考になった。 ・写真や動画等よりわかりやすい。										

5 市民協働	市民協働の取組		取組手法：⑥、⑦				
	☒ 取り組んだ ☐ 取り組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）				
	令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点						
	特になし						
6 分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 目標値には達しなかったが、例年とほぼ同等の効果を得られたため、維持とした。				
	(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を縮減することができたか)						
	☐ 向上 ☒ 維持 ☐ 低下		説明： 事業の目的、効果を維持するには現状の事業費や人件費が必要。				
	(3)指標の達成状況の評価						
		(2) 費用対効果			成果ランク (評 価)		成果 ラン ク の 説 明 と 方 向 性
	(1)		向上	維持	低下		
	効果 指 標	向上	A	B	D	E	
		維持	C	E	G		
		低下	F	H	I		
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。							
(4)効率性評価（さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。）							
☐ 見直す余地がある ☒ 見直す余地はない		説明： 従事する職員及び経費を必要最小限にしているため。					
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)							
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明： 子育て家庭に離乳食に関する教育参加の機会創出に影響があることから、子どもたちの成長と発達を支援する環境づくりに寄与できなくなるため。					
7 課 題	(1)令和4年度に課題とした内容（「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題（3）を転記）						
	・事業の中止などを踏まえた対応策を検討。 ・令和2年度に作成した離乳食作りに関する動画を公式YouTubeに掲載したがアクセス状況をみて今後作成等検討。						
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと ・令和4年度は事業を中止せず実施した。・随時栄養相談を受け付けしていることをアナウンスした。 ・事業で使用する冊子に動画のQRコードを掲載した。						
8 今 後 の 方 向 性	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）						
	・調理実習、試食の再開はいつから実施できるか検討する。（実際作って、味を確認してみたいという意見も一部ある） ・事業における定員数の増加について検討する。						
	(1)今後の取組（「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など） ・他市の状況等をみて実習、試食の再開を検討。・引き続き実習、試食ができなくても、参加者がわかりやすいように実演を工夫する。・卵の調理法が分からないという意見が多いので、実演していきたい。						

「令和4年度に実施した仕事」の振り返りシート（A：裁量有）

記入日 令和5年 4月1日

1 基本情報	事業名称		担当部署								
	栄養指導事業費		部	健幸いきいき部			係	保健係			
	[快腸プロジェクト事業]		課	健康推進課			課長名	幸村 有紀			
	総合計画（輝きプラン）における位置づけ										
	基本施策	2 健康であたたかい心のかよいあうまちづくり					第五次基本計画	65 ページ			
	施 策	施策2 — 1 保健、医療					複数施策	☐ あり			
	展開方向	1	☒ 市民の自主的・自発的な健康づくりの促進					重要施策	☒ 該当		
		2	☒ 病気の予防及び早期発見・早期治療のための環境づくり					まち・ひと・しごと創生 総合戦略アクションプラン	ページ		
		3	☒ 地域の医療体制の確保					実施計画	☐ 該当		
	事業種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市の実施が義務付けられているもの（上乗せあり）									
予算科目	会 計	一般会計	款	4	項	1	目	1	事業番号	5	
開始年度	平成 30 年度 ☐ 不詳			行政報告書		320 ページ		新規・継続	継続		
実施の根拠 (法令・要綱等)	健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針										
2 事業概要・目的・活動・実績	事業概要		生活習慣病への危機意識が全体的に低い子育て世代を主な対象とし、産官学民が連携するリビングラボという手法を取り入れ、腸内環境改善の正しい知識の啓発や、日常生活の中で継続して取り入れることが可能なよりよい健康行動を習得することで、市民の健康寿命延伸を目指す。								
	対象：誰を、何を対象としているか				目的：対象をどのような状態にしたいのか						
	市民				腸内環境改善を通して、市民の健康寿命を延伸する						
	活動内容：どのような手段で行ったのか				活動実績：事業を実施した結果「対象」にどのような変化があったか						
	①東京大学未来ビジョン研究センター・未来社会共創センターと協定を締結し、産官学民連携の健康づくりについての検討。 ②リビングラボの手法を用いて腸内環境改善をテーマに野菜摂取推定量の計測や、腸内環境改善講座を組み合わせた東大和ライフスタイルラボを実施。 ③市民を対象に腸内環境と東大和ライフスタイルラボに関する講演会を実施。				東大和ライフスタイルラボや講演会の実施により、市民が腸内環境改善を含んだライフスタイルを検討、実行した。						
	効果指標	増加を目指す指標	単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度			
		年度目標値	人	-		76		33			
		効果実績値	人	76		33		87			
		目標値設定の考え方	東大和ライフスタイルラボ延べ参加者を前年度実績以上とする。								
	3 経費	事業のコスト（実績）		単位	令和2年度		令和3年度		令和4年度		
事業費（実績）		円	1,769,540		1,091,109		1,138,454				
財源		一般財源	円	0		0		0			
		特定財源（国・都・他）	円	1,769,540		1,091,109		1,138,454			
		（うち受益者負担）	円								
人件費（目安）		所要人数（再任用以外）	人	1.0		1.0		1.0			
		所要人数（再任用）	人								
		職員人件費（再任用以外）	円	8,380,000		8,250,000		8,160,000			
	職員人件費（再任用）	円									
事業費+人件費		円	10,149,540		9,341,109		9,298,454				
4 市民等の意見	令和4年度中に寄せられた市民・議会等の意見、市民・サービス利用者等の実態やその意識について										
	・参加者との会話の中から初めて知ることが多く良い機会となった ・早速活用できる知識を学ぶことができて有意義な時間でした ・色々な考え方を持つ人達と意見交換が出来貴重な体験をすることができた ・なんとなく知っていたなんとなく実践していた食物繊維を取り入れる食生活でしたがワークを通して発見があったり自分もやってみようという気持ちになった ・皆様の取り組みや食事の悩みなど、話していて沢山の気づきや共感があった ・買い方について表示の見方などすごく参考になりよかった										

5	市民協働	市民協働の取組		取組手法：③、⑥						
		☒ 取組んだ ☐ 取組まない		【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体：HP、市報折込チラシ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）						
		令和5年度に向け、さらに適した協働の形態とするために 「考え」「気付いた」点								
市民の声を聴き、市民自らが改善、継続していけるような健康の取組が必要。										
6	分析・評価	(1)効果指標(評価の視点：この1年間、事務事業を行ったことによる効果の変動はどうだったか)								
		☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下		説明： 令和3年度までは子育て世代を対象としていたが、令和4年度は高齢者も対象とし、幅広い世代への効果があった。						
		(2)費用対効果(評価の視点：実施方法などを見直して、事業費や人件費を削減することができたか)								
		☒ 向上 ☐ 維持 ☐ 低下		説明： 高齢者を対象にすることにより、子育て世代の保育が不要となったことから、保育士の人件費削減となった。						
		(3)指標の達成状況の評価								
				(2) 費用対効果			成果ランク (評 価)	成果ランクの説明と方向性	A：効果指標・費用対効果が共に向上	
		(1)		向上	維持	低下			B：効果指標が向上・費用対効果が維持	
		効果指標	向上	A	B	D	A		C：効果指標が維持・費用対効果が向上	
			維持	C	E	G			D：効果指標が向上・費用対効果が低下	
			低下	F	H	I			E：効果指標・費用対効果が共に維持	
※ (1)の効果指標と(2)の費用対効果が交わったところが、G、Hのときは、縮小・休止を含めた要改革を検討し、I のときは廃止を検討する。							F：効果指標が低下・費用対効果が向上			
							G：効果指標が維持・費用対効果が低下 ※			
							H：効果指標が低下・費用対効果が維持 ※			
							I：効果指標・費用対効果が共に低下 ※			
(4)効率性評価(さらに費用対効果の向上を図るためにできることは何か。成果を下げずに事業費を削減できないか。)										
☒ 見直す余地がある ☐ 見直す余地はない		説明： 広報・啓発について、関係機関の広報媒体も活用することにより、費用対効果の向上を図ることが見込まれる。								
(5)休止・廃止した場合の影響(評価の視点：第五次基本計画の施策を実現するための手段として考える。)										
☒ 大きい ☐ 小さい ☐ 不可能		説明： この事業は施策の展開方向である「市民の自主的・自発的な健康づくりの促進」に寄与する事業である。より多くの市民が参加できる環境、体制をつくることで、自主的・自発的な健康づくりの促進を推進することができるため、業務の改善に積極的に取り組む必要がある。								
7	課題	(1)令和4年度に課題とした内容(「令和3年度に実施した仕事」の振り返りシート 7課題(3)を転記)								
		コロナ禍において安全安心な運営に努めて行くと共に、引き続き状況に応じて規模拡大を目指していく。また今後はシニア層もターゲットにすることも検討して行く。								
		(2)(1)の課題解決に向けた取組や事務改善など、令和4年度に実施したこと								
		コロナ禍であっても感染対策を徹底し、定期的にワークショップを開催した。令和4年度後期は高齢者を対象とし、幅広い世代へ規模拡大を図ることができた。								
		(3)(2)を踏まえた今後の課題(仕事の最適化・合理化の提案)								
		対象者の拡大により幅広い世代へのアプローチが可能となったが、ワークショップの参加人数が限られるため、参加者数の拡大について検討が必要である。								
8	方向性	(1)今後の取組(「6分析・評価 及び 7課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)								
		今後規模拡大のためにワークショップ以外の開催方法などを関係機関と共に検討していく必要がある。								